

FCP研究会 まとめ

アセスメント研究会

平成23年3月

農林水産省

フード・コミュニケーション・プロジェクトチーム

FCP研究会進捗報告(アセスメント)



アセスメント研究会

- 目的**
- 本研究会では、横浜商科大学地域産業研究所(小林二三夫所長)の呼びかけの下、フード・コミュニケーション・プロジェクト(以下FCPとする)の基本的な考え方に基づき、「協働の着眼点」等を活用したアセスメント全般(セルフ、二者間、第三者)に関する個々の活動の情報を共有し、広く普及させるための意見交換を実施。
 - 具体的には、「協働の着眼点」や、それを生かした評価軸等を活用した、アセスメント全般(セルフ、二、三者)に関する個々の活動をご報告いただき、情報を共有するとともに、個々の活動のスムーズな立ち上がり、評価軸の共有化の可能性、アセスメント全般の認知度向上等に関する、ご提案や課題解決に向けた意見交換を実施。
 - 併せて、「協働の着眼点」を活用した食品事業者の取組事例に関する情報を広くご提供いただき、意見交換を行うとともに、「協働の着眼点」をより良いものに見直すための情報の提供、改善に向けた提案を実施。

進捗

計3回の研究会でのべ59名の参加者による研究活動を実施	
第1回研究会 H22.7.2	概要:本研究会の進め方の説明、出席者それぞれからの「協働の着眼点」の活用状況についての報告、今後の「協働の着眼点」の活用に関する意見交換等を実施。
第2回研究会 H22.10.8	概要:第1回の意見交換で話題となったアセット・ベースト・レンディング(ABL)と「食の信頼!業務格付け制度」について、みずほ銀行及び(株)アイ・エス・レーティングより事例報告後、意見交換を実施。
第3回研究会 H22.12.10	概要:アセスメント研究会の活動報告とこれまでの意見交換の概要を振り返るとともに、今後の展開に関する意見交換を実施。

研究会ご登録企業/団体 18企業/団体



株式会社アイ・エス・レーティング

日本食糧新聞

味の素株式会社

社団法人日本セルフ・サービス協会

株式会社イトーヨーカ堂

日本HACCPトレーニングセンター

株式会社静岡銀行

日本マクドナルド株式会社

株式会社損害保険ジャパン

株式会社阪急クオリティーサポート

株式会社NKSJリスクマネジメント

株式会社みずほコーポレート銀行

株式会社千葉銀行

三菱化学メディエンス株式会社

東京海上日動火災保険株式会社

三菱商事株式会社

東京海上日動リスクコンサルティング株式会社

株式会社ヨークインシュランス

研究会活動報告と意見交換の概要①

○ 参加者の取組報告(第一回研究会より)

- ・具体的なビジネスとして、「協働の着眼点」の16項目における小売業向けの、衛生管理やクレーム対応のあり方などのルール作り、衛生管理基準の作成を検討。
- ・取引先やグループ会社を含め、FCMを活用し、「協働の着眼点」を浸透、普及させていけるような活動を予定。
- ・金融機関としても、財務データのみでの企業評価には限界を感じており、業務内容や経営者の姿勢等は、与信上も大切な判断材料であり、今後の主流となる可能性。本研究会における様々なアセスメントに関する活動を、新たな企業評価のツールとして活用を検討。
- ・現状金融機関においては、「協働の着眼点」を、営業担当における食品事業者を見て行く上での教育ツールとしての活用を想定。
- ・保険への活用という観点からすると、リスクの「見える化」が必要となる。そうした点から、本研究会を通じて、今後の「協働の着眼点」の活用に関して検討。

研究会活動報告と意見交換の概要②

- ABL、業務格付けに関する意見と課題(第二回研究会より)
 - ・中小企業等には、動産や債権など事業収益の源泉となる多様な資産を資金調達に活用したいとのニーズ。業務格付けは、それを受けた企業からは、営業面への活用や自社の業務に関するレベル向上への利用など、様々な効果への期待。
 - ・しかし、評価においては課題も存在しており、特に加工品等の最終製品の場合は、処分する際の価値の算出が困難であり、扱う動産によっては関連法律により、処分が容易でないものがある。また、財務評価に限らず、業務全般を評価していくことは、与信判断上も大切であるが、評価に係るコストが高い点が課題。
 - ・今後は、「協働の着眼点」を活用した評価に関する全体スキームを、研究会メンバー有志等で検討し、評価事業全体に関する認知度の向上、普及を進めて行くことが重要。

研究会活動報告と意見交換の概要③

○ これまでの意見交換の振り返り(第三回研究会より)

- ・格付けは、平成21年度の実行可能性調査の一つとして実施。その際格付けを受けた事業者から、継続して実施してはどうか、という声もあり、そのポテンシャルはあると認識。しかし、実施のためには一層のFCPの普及が必要な現状。今後もFCPの普及、格付けに関するマーケットの動向を見ながら、目的を共有する事業者と肅々と進めて行く予定。この研究会の参加者の皆様との今後のつながりにも期待。
- ・企業イメージというものは、そのイメージの確立には時間がかかるものであるが、同様に、食の信頼を確立し、FCPを普及させていくことにも時間がかかるのはやむを得ないであろう。
- ・昨年度のFCM策定の研究会から一貫して参加しているが、「協働の着眼点」の大項目1、2に注目し、業種を越えてサプライチェーン全体で議論することのできる貴重な研究会である。また、FCPの普及という点において、業界内・消費者どちらに対しても、少しずつではあるがFCPを打ち出して行きたい。
- ・本研究会でABLも議題としてあがったが、“在庫”の確認・評価は難しいと実感。また、本研究会に参加することを通じ、改めて異業種との話し合いや関わりは大切であると感じている。
- ・金融機関がFCPに参加することの意義を問われることもあるが、積極的に普及に努めている。例えば、FCP展示会・商談会シートを中小事業者の支援に活用したり、このアセスメント研究会での議論を、企業評価、保全面、銀行与信判断等の金融判断に用いることができるのではないか、と考えている。
- ・FCPの「協働の着眼点」を活用した、新たな評価システムを保険に適用できないか、と考えている。そのためにも、FCP「協働の着眼点」の普及は必要不可欠。
- ・食品業界に対するコンサルティングにおいて、「協働の着眼点」を紹介すると、対応が二つに分かれる。評価を受けることに難色を示す企業に対して、活用を受け入れやすくするためのきっかけが重要。
- ・(流通という観点から、)子会社の管理や事業の管理の上で「協働の着眼点」及びそれを活用した評価システムがどのように使えるかについて興味がある。

今後の展開について

○本研究会の最終回において、発起人の横浜商科大学地域産業研究所小林所長より、アセスメント研究会は予定どおり全3回の実施で終了し、これまでの活動を総括して知見を共有したいこと、及び半年間(1~5月)ピッツバーグ大学に交換教授として赴任するため、その間は、他の研究会等でも情報を共有していただきたいこと、来年度のアセスメント研究会に関しては、今後FCP事務局と相談して進め方を決めていく予定であることが説明された。

○なお、小林所長が不在の期間、アセスメント研究会参加者の個別の取組について情報共有して頂くような情報共有のための機会として、FCP普及・戦略研究会等について紹介された。FCP普及・戦略研究会では、以下の4つのテーマに関してFCPの取組を通じての研究を実施する予定であることから、このような取組に感心のある参加者におかれては、是非参加頂きたいとのことであった。

■農林水産政策研究所・研究委託事業の全体フレーム■

